



あいさつ

貝 沼 圭 二

国際農林水産業研究センター所長

おはようございます。所長の貝沼でございます。

本日は、早朝からのこのようにたくさんの方にお集まりいただきまして、まことにありがとうございます。つくばというところは、東京から少し離れておりますので、9時の開会というのは、ちょっと非常識なところもございましたけれども、大変盛りだくさんの内容になりましたので、それでは1日みっちりやろうということで、9時という開会にいたしました。

皆さんご存じと思いますが、この新しい国際農林水産業研究センター、大変名前が長いので、私どもは略してJIRCASというふうに、英語の略称でもって、Japan International Research Center for Agricultural SciencesということでJIRCASと言っておりますが、私も、余り長いので間違えるといけませんから、これからJIRCASと言わせていただきますけれども、ちょうど昨年10月1日に、前の熱帯農業研究センターから新しい組織として誕生いたしました。

それで、このJIRCASに変わるについては、一つは、研究分野を拡大していこうということで、その最も特徴がありますのは、水産分野をつくばに呼んできたというような1点がございます。

それから、農業だけではなくて、林業、水産ということで、まさに農林水産省の中では、三つのものを一つの研究所に集めてやれる体制というようなものをつくりました。

もう一つは、研究地域の拡大ということで、従来の熱帯、亜熱帯というところの研究対象を、開発途上地域全般というようにして、中央アジアの問題、中国の問題、あるいは南アメリカというふうに、私どものテリトリーを広げていくということを考えております。

それから、もう一つは、情報の分野をここでかなり強化して、今までは、私どもが研究を進めるための情報というようなものを持っておりましたが、今後は、この研究所だけではなくて、農水省の研究機関全般の、あるいは、さらには農水省の行政を進めていくための国際的な視野というようなもののデータはここに蓄積するというぐらいのつもりで、今、仕事を始めております。

今日は第1回目で、きつとつくばでこれだけの水産の皆さんにお集まりいただいて研究会をするのは、初めてではないかと思っておりますが、私どもは、これから水産研究というようなものの、各地域にあります水産研究所、あるいは県の水産試験場、そういうところの技術をここにパッケージして、ここから外国へ持ち出すというような、一つのセンターになりたいと考えておまして、福所部長はじめ7人の水産部をここにつくりました。

彼は大変頑張ってくれて、今日は第1回の特別の研究会を水産でやろうというようなことを発案してもらい、私も、大変時宜を得たものだと思っております。

現在、私どもは、ここの建物にありますが、新しいJIRCASの建物、ちょうどこのキャンパスの西側の方につくり始めておまして、その中には、水産分野の研究にかなりのスペースをとって、そこに水槽を入れて魚を飼おうということで、今、福所部長たちが一生懸命、どんな魚がいいかというようなことを考えておられますけれども、やはり私どもの研究所の一つの顔として、つくばにおける水産研究というようなことを大事な分野と考えております。

今日は、この分野の本当に日本を代表する先生方にお集まりいただきまして、大変内容のあるお話を伺うことができるということで、大変楽しみにしております。夕方5時まで、ぜひ皆さんの活発なご意見を出していただき、活発な研究会にさせていただきたいと思っております。

では、開会に先立ちましてご挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。